

vol.
57
2022
summer



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Students Now!

卒業生CATCH!

授業探訪

ラボ訪問

BAGの中身

学生スナップ

TOPICS

附属学校園ウォッチ

教員養成フラッグシップ大学指定
&
新学長就任記念特集

特集

新学長へ インタビュー!

学生広報 DAIKYO PRESS がゆく。

教員養成フラッグシップ大学について 新学長へインタビュー！

大阪教育大学は、2022年3月に「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受けました。全国から15大学が申請したなか、指定校として選ばれたのは本学を含めた4大学。

そこで今回は、本学の学生広報「DAIKYO PRESS（通称DKP）」をインタビュアーとして迎え、学長着任前には理事・副学長として教員養成フラッグシップ大学構想の作成に携わり、2022年4月に学長に着任した岡本幾子学長にインタビューしました。

「『教員養成フラッグシップ大学』とは？」「指定されるとどんなメリットがあるの？」「新学長ってどんな人？」etc…学生目線の質問に、岡本学長が答えます。

大阪教育大学 学長
おかもと いくこ
岡本 幾子

教育協働学科グローバル教育専攻
多文化リテラシーコース2年生
さかい みなみ
坂井 美波さん
(大阪府立和泉高等学校 卒)

教育協働学科グローバル教育専攻
英語コミュニケーションコース4年生
ねもと こうすけ
根本 晃輔さん
(大阪府立豊中高等学校 卒)

教育協働学科グローバル教育専攻
英語コミュニケーションコース4年生
いけ だ とうむ
池田 堂夢さん
(大阪府立千里高等学校 卒)

Q.1

教員養成フラッグシップ大学ってなんですか？

A. これからの学校教育・教員養成を変革するけん引役を担う大学のことです

文部科学省が新たに創設した制度で、「令和の日本型学校教育*」を担う教師の育成や、教員養成の在り方の変革をけん引する役割を果たす大学を、申請に基づいて文部科学大臣が教員養成フラッグシップ大学として指定するものです。指定大学は、教育現場や教育行政、企業や他大学などと協働して、新しいカリキュラムを研究・開発したり、その経験から得られた知見を他大学に展開します。

※デジタル化・オンライン化など急激に変化する社会を背景として、子どもたちの知・徳・体を育む「日本型学校教育」をさらに発展させ、すべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざす、新しい時代の学校教育のこと。

Q.2

指定されるとどんなメリットがあるんですか？

A. 10年、20年先の教育を提案できる大学になることができます

制度的な面としては、法律で定められている「教科及び教職に関する科目」の一部に代えて、大学が設定するこれらに準ずる新たな科目を修得することによって、教員免許を取得することができます。

この特例を用いて編成された先導的・革新的なカリキュラムで、これからの教育で必要とされる領域を学べるということは、学生さんにとってメリットと言えると思いますし、大阪教育大学が研究・開発して提案した教育プログラムが日本の未来を創っていくことに繋がっていきます。

教育の成果はすぐに出ないと言われますが、フラッグシップ大学に指定されること自体がメリットではなく、未来の教育を担う人材を育成するための環境・土台作りができることがメリットなのです。

Q.3

申請をしたきっかけは何ですか？

A. 全国の学校教育が直面する課題*が顕著であり、縮図化している大阪にキャンパスを置く本学が取り組んできたダイバーシティ教育の実践・研究の知見を共有するためです。

※特別支援学級に在籍する児童生徒や日本語指導を必要とする児童生徒、貧困や不登校、ヤングケアラー等のこと。

Q.4

教員養成フラッグシップ大学としてどんなことに取り組んでいくんですか？

A. 3つの取組を主軸に、多様性に富む大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師を育成していきます。

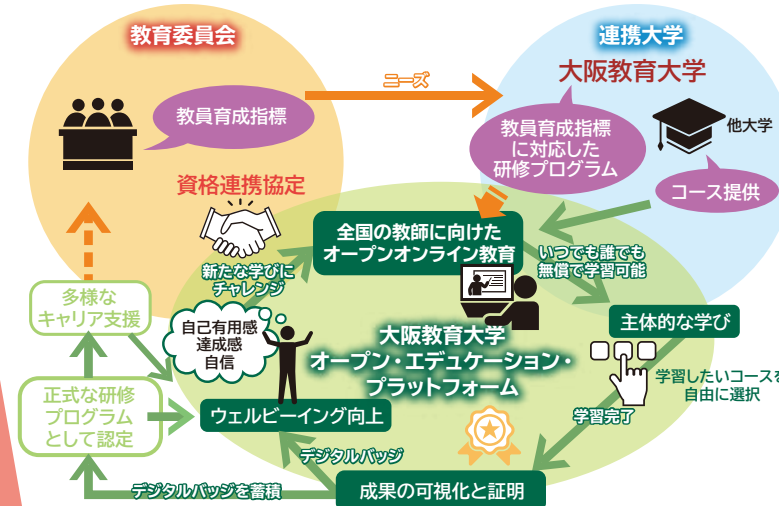
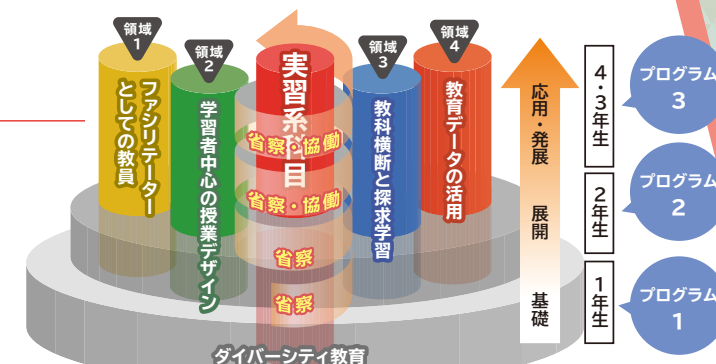
さまざまな
取組が
あるんですね！



3つの取組の構想

1 先導的・革新的な教員養成プログラムと教職科目の研究・開発

これからの時代に必要とされるスキルを子どもに身に付けさせることができる教員を養成するために、ダイバーシティ教育をベースとして、4つのテーマ領域と実習系の科目で繰り返し省察・協働できるように構成する、革新的なカリキュラムを開発します。また、クラウド上の仮想空間で学校を体験・経験できる教材「バーチャルスクール」や、学部と教職大学院の一体的なカリキュラムの開発、授業を行う大学教員の研修内容の変革など、教職科目の研究と開発にも取り組んでいきます。



2 学び続ける教員を支えるプラットフォームの構築

現職の先生向けの研修において「どのような研修でどのようなことを学んだ先生なのか」を教育委員会と共有しやすい環境を整えようとしています。例えば、「日本語を母国語としない生徒の支援」に関する研修を受けた先生にデジタルバッジ*を付与すると、システム上でそのバッジを確認した教育委員会は、その支援をより必要とする学校にその先生を配置することができるという仕組みです。

※資格や研修を修了した証明書としてオンライン上で発行するバッジのこと。

3 他機関と連携を深める共創環境の整備

「産官学連携」がとりやすい環境にするために、大阪府教育委員会と協働で「大阪アドバンス・ラーニング・センター（仮称）」を建設します。

くわしくは
次のページ！

Osaka Advanced Learning Center

2024年4月から
供用開始を予定!



★ 未来型教室
フロア



★ ノンテリトリアル・フロア
(プレゼンテーションコート)

Q.5

大阪アドバンス・ラーニング・センター(仮称)は
どんな施設なんですか?

A. 大阪市教育委員会との協働により天王寺
キャンパス内に建築する10階建ての合築施設

日本の将来を見据え、学校教育に求められる変革に対応するため、教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題(弱み)や資源(強み)を一堂に集積して大きな成果を生み出す共創環境として、整備を進めています。

10F	研修室フロア
9F	研修室フロア
8F	事務室フロア
7F	教育ICT推進フロア
6F	研究フロア シナジースクエア
5F	産官学協働拠点フロア ノンテリトリアル・フロア★
4F	未来型教室フロア★
3F	未来型教室フロア
2F	大学院協働学習室フロア
1F	研究室・学生フロア

新・大阪市総合教育センター

大阪教育大学

Q.6

大阪教育大学のフロア(1F~5F)には何があるんですか?

1F: 研究室・学生フロア



エントランスホール

2F: 大学院協働学習室フロア

大学院生(教職大学院、教育学研究科)の協働学習室として利用するフロア
→教職大学院の院生と教育学研究科の院生が学び合う環境に。1階の学生エリアと合わせ、院生指導も行われる。

3・4F: 未来型教室フロア

- Edtech*を活用したSTEAM学習コンテンツの利用・検証
- 教師に求められる「新しい専門性」の育成に資するプログラムの開発・効果検証
- 授業編成や指導案のモデルプランの提案

※教育(Education)×テクノロジー(Technology)を組み合わせた造語で、教育領域にイノベーションを起こすビジネス、サービス、スタートアップ企業などの総称。

5F: 産官学共同研究拠点
「ノンテリトリアル・フロア」

- 企業ブース: 企業やNPO法人と連携して共同研究事業に取り組む場所
- プレゼンテーションコート: プレゼン・ポスターセッション・授業等に幅広く利用
- コワーキングスペース: 個人作業や気軽にディスカッションができるエリア



OALeC や教員養成
フラッグシップ大学の
詳細・最新情報は大学
ウェブページで!

Q.8

会議や
打ち合わせが
多くてびっくり!



岡本学長の普段の仕事内容は?
私のとある1日をご紹介します

8:30 書類確認・決裁
9:00 関係企業との打ち合わせ
10:00 オンライン役員協議会
10:30 ダイバーシティ関連会議
11:30 各部署で進めている業務の進捗確認
13:00 昼食
13:30 部局長連絡会議
15:00 大学戦略会議
16:00 教授との打ち合わせ
17:00 翌日の会議資料の確認など
19:00 終業

Q.9

岡本学長のプライベートって?!

学生のとき頑張ったこと

「洗濯」です

生活科学を専攻していた私は、今では一般的にも普及している「酵素洗剤」による洗浄について研究していました。垢(表皮角質層汚れ)を落とす際に高い洗浄力を保ちながら、酵素の失活を低減する洗剤の配合を調べるため、試験布を実験着の襟に付けて汚れを採取することを洗剤関連企業の研究員の方々に頼んだことも…今ではいい思い出です。

大教大のお気に入りスポット

柏原キャンパス ⇒ 教材園
天王寺キャンパス ⇒ 中庭

高台にある教材園から見下ろす柏原キャンパスと、中庭から見上げるあべのハルカスが素晴らしい景色でお気に入りです。

学食の好きなメニュー

バイキングで好みのおかずを選ぶのが好き

学長に就任してからは忙しくてあまり行かなくなっていました。忙しいときはお弁当が多いんです。

趣味

ホームセンターめぐり

学生の頃は、色んな材料を見ながら「実験をするときにこれは利用できるかも」と考えながらお店をめぐっていました。今は実験に関わらず、作るもののイメージを膨らませながらいろんな材料を見て歩くのが楽しいです。

願い事が一つだけ叶うとしたら

20年前の体力に戻りたい(笑)

仕事もプライベートも、本当はもっと動き回って、食欲に楽しみたい。若い体力はとても貴重です。学生の皆さんは今を全力で楽しんでください。

好きな言葉

努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。

小説家の井上靖さんの言葉です。私には両方の側面があるので、この言葉を自分自身に言い聞かせています。

就任の意気込みと本学の今後について一言!

「フラッグシップ大学として日本の教育の未来に向けて全力投球」
大阪教育大学は、令和の日本型学校教育をけん引し、
大阪から日本の教育を変えていきます。



「DKP 取材後記」

学長は、とてもパワフルでチャレンジ精神にあふれる方でした。

また、教員養成フラッグシップ大学として大教大が選ばれたのは誇らしいことであるとともに、指定大学として前を走り続けるためには、自分たち学生の意識も重要だということが分かりました。

若い体力や時間を大切に、これからも大学でたくさん学び、周囲の友人やいろんな方とともに思い出をつくっていきたいと思います。



KEITA
NISHIMOTO

悩んでいる人に 寄り添って サポートできるように

Students Now!

スチューデント ナウ

教育学研究科
高度教育支援開発専攻 心理・教育支援コース 2 年生

西本 圭汰 さん （兵庫県立伊丹北高等学校卒）

「公認心理師の資格ができたとき、まさにこういう仕事があった、と思いました」と目を輝かせて話す西本さん。心理職関係の仕事に就きたいという思いをもって本学に入学し、公認心理師国家試験の受験資格を得るために大学院へ進学しました。現在は授業や自身の研究と並行して、国家試験に向けた勉強と実習にアクセル全開で取り組んでいます。

小学校から高校までサッカーを続けた西本さんは、コーチや学校の先生と関わるなかで元々は教員をめざしていたといいます。そんな西本さんが心理職に就きたいと思ったのは高校生のとき。「僕が通っていた高校では、公民館などの外部機関での実習や自身の将来についての発表などに取り組む授業がありました。とても有意義でしたが、僕は発表することに苦手意識があって…。インタビューに丁寧に受け答える姿からは意外にも思えますが、それには理由がありました。

「僕は吃音症^{きつおん}という言葉が少し詰まることがある発達障がいをもっていて、それが原因で、発表するのがしんどくなってしまった時期がありました。当時、個人的には、吃音の症状よりも吃音から生じる心の問題の方が辛かったです。だから、この問題に向き合うため

に心理学を学びたい、他人のこともサポートできるようになりたい、と思いました」。本学を選んだ理由は、教員になっていく人たちを横で見ることができるのと同時に、心理学も学べるという点だったそうです。

吃音症において併存することの多い各種の心理的問題に着目した研究を学部時代から続けているという西本さん。「心理的問題が生じる原因として、注意的側面が挙げられます。『考えすぎ』と表現すると分かりやすいですが、具体的には『言葉が吃ら^{ども}ないだろうか』と吃音症状に意識が向きすぎてしまうことで、対人場面への不安や自己肯定感の低下につながるという考え方です。そこで、より広い視野を持つことができれば、吃音に関する心の問題も改善されていくと考え、現在その研究を進めています」。従来からある注意的側面に着目する心理療法が吃音症にも有効なのかどうかを検討し、「心理的問題に対する支援モデルがあれば緩和できるのではないかと考えています」と力強く語ります。

学部時代や大学院の授業やゼミでプレゼンする機会も多く、研究を進めるなかでも発表への苦手意識は薄れてきたという西本さんは、研究室や授業以外でもさまざまな活動を

しています。その1つが軽音楽部でのギター演奏。中学生時代からギターに興味があったものの、学校に軽音楽部がなかったことから「大学に入学してやっと始められました」と笑います。学部卒業後の現在も、社会人の先輩に誘われてライブに出演したり、PCで作曲から収録までをすべて自分で行ってオリジナル曲も作成したりしているのだとか。「勉強の息抜きにギターを演奏することもあるのですが、つい時間を忘れて弾いてしまうこともあります」。

将来は、本学で学んだ教育関係の知識も生かして、学校や精神科でカウンセラーとして勤め、自分と同じように悩んでいる人をサポートできるようになりたいという西本さん。興味があることを貪欲に追究し、「やる」と決めたことを実現していく力をもつ西本さんが、インタビューのときと同じ優しい目で子どもや患者に接している姿が思い浮かびます。



学生時代の 自分・いまの学生に 伝えたいこと

部活動と学業に専念しましたが、もっと大学のイベントにも積極的に参加すればよかった！学ぶこと以外にも、経験することはすべて子どもたちに還元できます。

令和時代を生き抜くライフスキルを
子どもたちに実践を重ねて
根拠に基づいた教育をもっと広めたい！



ゼミで“批判的に物事を見ること”“問題提起すること”の重要性や研究の面白さに気づく

「現在にも通じるこの気づきを得たのは、渡邊昭子教授の西洋史ゼミです」。文献を持ち寄って、ゼミ生同士で議論するなかで「文献同士の矛盾を見つけて『どうしてその矛盾が生じるのか？』と問題提起したり、そこから新たな仮説を立てたりと話を進めていくと、新しい着眼点や気づき生まれるんです」と、筆野さんは顔を輝かせます。「一般的に“批判”って聞こえが良くないかもしれませんが、子どもが起こす行動を客観的に判断するために、『本当にそうか？どうしてそうなった？』と立ち返ることが必要な場面もあります。その考え方の基盤はゼミで培うことができました」。

一般企業への就職後に研究したい分野を見出す

「卒業後入社した一般企業で、精神的な理由で離職していく人と接する機会がありました」。そこで、今の社会で生き抜くための“ライフスキル”を会得することの喫緊性に気づいた筆野さんは、「研究したい。子どもたちにも伝えたい。やっぱり先生になりたい」と思い立ち、退職後に小学校教員資格認定試験に挑戦して無事合格、堺市で教師として働きはじめました。

働きながら大学院へ通い博士号を取得

博士号取得まで見据えていたこと、研究したい分野の権威でもある教授が在籍していたことから、教員2年目にして兵庫教育大学大学院への進学を決意します。「働きながらの研究は、修士課程では同期の院生と切磋琢磨しながら、博士課程ではコロナ禍で孤独と闘いながら、と大変でしたが充実していました」と語ります。

自身の研究分野に関する本を出版

院時代に他の学校や大学の教員との共著で本を出版。その際に知り合った編集者から、実践的な指導法に関する本の執筆を依頼され、「もっと根拠に基づいた指導がしたい。その方法を広めたい」という思いから提案を受けたといいます。平日は勤務後1時間、土日は5時間を目標に執筆に励んだそうです。「働きながらの執筆活動はやはりハードでしたが、生みの苦しみや自身の経験不足など、気づかされることも多く、教師としても一回り成長できたように思います」。

小学校の教員としてのやりがい

「教え子たちが本当にかわいいですね。『打てば響く』じゃないですが、僕がしゃべっていることを真剣に聴いてくれたり、発問したことに対してすごい勢いで手を挙げてくれたり。反応が純粹で、

卒業生 CATCH!

卒業後一度は一般企業に就職したものの、中学生時代からの夢だった教員を諦め切れずに退職。その後、小学校教員資格認定試験に見事合格した筆野さんは、堺市の小学校の教員として勤め始めます。教員2年目には、教員としての今後のキャリアの幅を広げることも視野にいれて「体力があるうちにもっと研究がしたい!」と、勤務後に兵庫教育大学の大学院夜間クラスに通い、修士号・博士号を取得。2022年1月には自身の専門分野に関する本も出版。教員・研究者・執筆者、3つの顔をもつ卒業生の過去と現在に迫ります。



YouTube
OKU Channel
インタビュー動画が見られます。

とてもやりがいのある仕事です。職場にも恵まれ、挑戦したいことにも挑戦させてもらっています」と楽しそうに話す筆野さん。博士課程で身につけた専門性を生かせる保健主事に自ら志望して着任し、今は子どもたちの健康教育を推進しています。

これから挑戦したいこと

「“教師をめざす人材を育てる”という点で、大学教員の仕事も魅力的に感じています。教員9年目、まだまだ未熟な僕ですが、まずは小学校の教員として精一杯、『千里の道も一歩から』自分のできることを着実に進めていきたいです」。保健主事としての仕事を発展させたり、いま実践研究していることを論文化したりと、挑戦したいことがたくさんある、と表情を輝かせていました。



児童から大人気の筆野先生。授業中も休み時間も教室が活気に満ちていました。



大教生はどんな授業を受けているのか？
講義室をのぞいてみました。

主な対象学生 ▶ 学校教育教員養成課程 小中教育専攻／中等教育専攻 理科教育コース（3回生）

物理学実験Ⅱ

理論を紐解く

14の物理学実験に挑戦

光の速度測定



プリズム分光計



電子の比電荷



プレゼン



2022年度前期 火曜4-5限開講

トライ&エラーと、協力して解決する喜び

この授業では、学校の教科書で紹介されている物理分野の実験を通して、その実験の理論を正しく理解し、学校で学習する内容との関わりを捉えていきます。

取り扱う実験は、学生たちが小・中・高等学校の授業で器具の不足や時間の都合上経験してこなかったであろう、14種類の実験※です。学生たちは、各自で実験方法や理論についての予習ノートを作成し、授業ごとにローテーションで割り当てられた実験に、個人または2人で臨みます。

1回の授業の中で、14種類の実験が同時に進行。中には、実験器具の使い方でつまずいたり、理論どおりの反応にならなかったり、思うように実験が進まないこともあります。そんなときには、既にその実験を経験した学生が、「この器具はコツがあるんよ」「こうすれば測定の効率よくなるで」と力強い味方になってくれ、仲間と協力しながら実験上のトラブルを解決していきます。さらには、再実験や再計測、再計算を乗り越え、最終的に計算が合致ときには、ガッツポーズとともに歓喜の声をあげる姿もありました。

授業を担当する教員の一人である鈴木康文教授は、この授業のねらいについて、計算の公式や問題の解法だけを教える“指導の殻”を破ることだといいます。「学校現場では、テストや受験で出された問題に対して、覚えた解法を使って解く力が重要視されがちです。しかし、この授業を通して、目の前や身の回りで起きている事象に向き合い、自分の中で問いを立ててアプローチしようとする姿勢を身に付け、それを指導に生かしてほしいと考えています」。

※連成振動、Hareの装置による液体の密度測定、ニュートンリング、回折格子、プリズム分光計、熱電対、光の速度測定、電子の比電荷、ミリカンの実験、フランク-ヘルツの実験、プランク定数の測定、クーロンの実験/バンデグラフ、電波実験、電気実験

実験での学びをプレゼンテーション

授業で取り組むのは実験だけではありません。授業の各回の最初に、2人の学生が1人ずつ、自分が取り組んだ実験の理論や器具、方法、結果、考察、小・中・高等学校の学習内容との関わりについてプレゼンする機会が設けられています。そこでは、説明や計測方法が間違っていることを教員に指摘される場面も。すると、プレゼンを聞いていた他の学生同士が実験ノートを広げて、「俺のときはこうなった」「あそこの計算はこうかな？」と議論を繰り広げます。

授業を担当するもう一人の教員である深澤優子准教授は、「このプレゼンでは、その実験の仕組みが、身の回りでこういったものに応用されているか、ということまで調べて説明してもらいます。理論と応用を学生同士で伝え合えるほどに理解していれば、子どもたちに教えるときにも具体的な話ができますし、子どもたちがより理解しやすい指導になると思います」といいます。



理科教育部門 准教授
深澤 優子
Fukazawa Yuuko

授業担当教員

実験器具には、あえて最低限の説明書しか付けず、学生たちが自分で考えながら実験を進めていけるようにしています。器具と向き合ったときに、予習した実験方法や理論に基づいて考えることを通して、自分の中で問いを組み立て、他者と協働しながら解決していく力を培ってほしいです。



理科教育部門 教授
鈴木 康文
Susuki Yasufumi

LAB

ラボ訪問

理科の授業を
"理科の勉強"だけで
終わらせない

理数情報教育系
(理科教育部門)

石川 聡子 教授
ISHIKAWA SATOKO



🔍 現在取り組んでいる研究は？

A 理科教育の立場から特に科学技術に関する職業教育に関心を持っています。

OECD(経済協力開発機構)が進めるPISA(国際的な学習到達度に関する調査)において、日本の子どもは「なぜ理科を学ぶのか」「理科で学んだことが将来何に役立つのか」といった動機付けに関するアンケート結果でOECDの平均値を下回っています。学校で学ぶことと自分の将来の職業を結びつけることがうまくできていないともいえる結果です。

一方、職業教育がうまくいっている国では、こういう職業に就くにはこの資格が必要で、この資格を取得するには理科のこの知識が必要、といった対応関係があるのです。将来自分がどんな職業に就きたいか、そのために理科をこんな風に学びたい、日本の子どもが理科教育にそんなふうに向き合えるといいなあと考えています。もちろん、理科は仕事のために学ぶだけではなく、社会の中での科学技術のあり方を市民としてよく考えられるようになるためにも大切な教科です。残念ながら、コロナ禍で研究はなかなか思うようにはかどっていないのが現状ですが…。

それから、理系の職業選択とジェンダーの関係にも興味を持っています。“**教育環境や生活環境が職業選択に与える影響**”について少し考えてみましょう。例えば、男女雇用機会均等法などの法律が制定されて、社会制度的には女性の社会進出が後押しされましたが、幼少期にロールモデルとして見る絵本の登場人物の女性たちは、お花屋さんとか保育士さんとか、まだまだステレオタイプではなかったですか？女性の社会進出は描かれるようになって、一部の医療系を除く理科系の職業はほぼ描かれていないのです。“リケジョ”という言葉がありますが、幼少期をそういう環境で過ごして、中学生や高校生になったとたんに「理科が好きな女子は理科系の分野に進学・就職しましょう」って急に言われても…、私たち女子は小さい頃からそんな風には育てられてきてませんって感じですね。



🔍 今後挑戦してみたいことは？

A 「理科で学ぶことは自分の職業選択やキャリア形成に役に立つんだ」と、特に高校を卒業して社会に出る若者が具体的な実感と自信を持って、生き生きと仕事ができるような、そんな理科教育のあり方を研究したいと思っています。理科教育というよりむしろ近年国内外で注目されているSTEAM教育が適しているかもしれません。

🔍 学生時代の印象的な思い出は？

A 教育実習です。それも悔しい気持ちの方で。小学校の国語の授業で、私が発問したことに對して、子どもたちから言ってほしい言葉を引き出せなかったことがありました。私の発問が悪かったのですね。学内で教育実習の仕事をしていますが、今も学生に、「30年以上も前の出来事だけど、そのときのもどかしい思いを鮮明に覚えているくらい、教育実習はインパクトがある」という話をすることがあります。

🔍 先生は小さい頃どんな子どもでしたか？

A マンウォッチングが好きなワイルドな子ども。高校生までは山口県の田舎に住んでいて、小学生

学生へのメッセージ

世の中には、いわゆる“教育困難校”と呼ばれる学校もあって、“理科が好きな子”や“勉強が好きな子”だけではなく多様な子どもがいます。だから、自分の経験だけで学校についてイメージを持つのではなく、スクールサポーターや学校インターンシップに積極的に参加して、たくさんの子ともたちと出会ってください。そして、教員のやりがいを知って素敵な先生になってください。

このように、**私たち多くが抱えている社会通念やイメージを漠然としたままにしておくのではなく、研究として証拠集めをしたい**と思っています。

の頃は学校から帰ってきたらすぐに遊びに出かけていました。イチジクの木に登ってカミキリムシを捕まえたり、田んぼに入って足をヒルに噛まれたり…。一方で、母が理科の教師だったこともあって、虫眼鏡とピンセットを片手にいろんな植物の説明をしてくれましたが、「ふ〜ん」って聞き流しちゃうような子どもでした。植物を見るより人を見て「あの人なんであんな恰好をしているんだろう？」と考えるのが好きだったのです。

🔍 大教大に来たきっかけは？

A 環境教育の^{なにか}大家である鈴木善次先生

初めて大教大を訪れたのは、30歳の頃。まだ木造だった天王寺キャンパスで開催された学会に参加したときでした。その学会で、現在は名誉教授である鈴木先生に感銘を受けて「この先生に指導してほしい!」と思った私は、先生のゼミに参加させてもらえるように直接交渉して、大教大に通うようになり、そのまま大学教員に。

🔍 息抜きや趣味はありますか？

A 気ままに料理すること。猫の動画も。

冷蔵庫のなかにあるもので自由に料理するのが趣味ですね。最近だと、サイクリング好きの夫が買ってきたタケノコで作ったタケノコご飯が、おいしくできました。あとは、猫が好きなので猫の動画を見て癒されたりしています。

BAGの中身

おのの子の気になる

夢や希望でいっぱいの大教大生のカバンの中を特別に見せてもらいました

Koyama Saki



①カバン ②ヘアアイロン ③バスケケース ④財布 ⑤ポーチ ⑥手鏡 ⑦ハンカチ ⑧ドラムスティック「通学前に自宅の電子ドラムで練習するのがルーティンです」 ⑨楽譜用のファイル「メモを書き込みやすくお気に入り」 ⑩PC「教科書を使わない授業が多くて驚きました」 ⑪筆箱 ⑫筆記用具 ⑬目録 ⑭コンタクトケース ⑮製図用定規 ⑯スマートフォン ⑰モバイルバッテリー ⑱ハンディファン

小山 紗季さん

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
家政教育コース 1年生

被服学の楽しさを伝えられる家庭科の先生をめざして大教大へ入学しました。専門科目の授業では「キッチン空間の設計」をしたり、教養基礎科目の授業では自己紹介をフランス語で練習したりと、新しい発見や学びがあって毎日がとても充実しています。また、高校で始めたドラムも続けていて、軽音楽部と吹奏楽部に入部しました。小さい頃からおしゃべりが好きだったことから、高校では体育祭、大学でも五月祭で着るクラスTシャツのデザインを担当させてもらうなど、学業以外にもいろんなことに挑戦しています。これからの大学生活も全力で楽しんでいきたいです！



小山さんがデザインした
クラスTシャツ

吹奏楽部ってこんなところ

今回の表紙に登場してもらったのは吹奏楽部の学生たち。
吹奏楽部の部活の活動内容やおすすめポイントを
聞いてみました。

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
家政教育コース 1年生
小山 紗季さん

吹奏楽部では夏と冬の演奏会に向けて週3回練習をしています。また、優しくて頼りになる先輩が多く、いつも助けてもらっています。

教育協働学科
教育心理学専攻 2年生
古川 明日香さん

年2回の演奏会に加えて、幼稚園や小学校での依頼演奏など多くの行事があります！大人数でひとつの音楽を作り上げるのが一番の喜びです。

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
社会科教育コース 3年生
三原 清吾さん

演奏を通じて、部員同士やお客さんと”音楽でつながる”ということを大事にして活動しています。学生たちだけで一から音楽や演奏会を作り上げるのは、大学の吹奏楽ならではの醍醐味です！

吹奏楽部



撮影の裏側をチェック！



YouTube
OKU
Channel

今号から広報誌のデザインが
リニューアル！
新デザイン誌面で新入生の
通学スタイルをご紹介します。

「普段の通学スタイルで」とお願いしたところ、
なんと全員が黒のバッグ。着る服の色を選ばなくて
使いやすいというのが理由のようです。

学生 SNAP

Q.
初めての大学の
なが〜い夏休み。
やってみたいことは
何ですか？

A.
「早寝早起きを徹底して
規則正しい生活を。
クラシック音楽に
たくさん触れたい♪」

Isshiki Hayato

一色 隼利さん

教育協働学科
芸術表現専攻
音楽表現コース 1年生

A.
「たくさん本を読んで、
その世界に没頭したい。」

Morikawa Nana

森川 奈菜さん

学校教育教員養成課程
小中教育専攻
国語教育コース 1年生

A.
「自動車の運転免許をとって、
家族を海辺のドライブに
連れていきたい！」

Yoshida Kazuki

吉田 和生さん

教育協働学科
グローバル教育専攻
多文化リテラシーコース 1年生

A.
「6月に始めた
“学生サポーター”の活動で、
子どもといっぱい
接したい！」

Mitsuno Yuki

光野 友稀さん

初等教育教員養成課程
小学校教育専攻
昼間コース 1年生

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S

TOPICS

この他にも最新のTOPICSは
こちらからご覧ください▶



01

3年ぶりに
春の学園祭「五月祭」を対面開催！



02

大学教員らが
総務省・企業と連携しパラオで実践研究



03

教育学研究科
国際協働教育コースの院生が
国際シンポジウムで最優秀学生ポスター賞



04

ウィズコロナ時代への
突入とともに国際交流を再開



大阪教育大学
附属学校園

WATCH
ウォッチ

「学校安全の日」附属池田小学校行事 「祈りと誓いの集い」を実施



平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷しました。事件から21年を迎えた6月8日(水)、同校で追悼式典「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら約770人が参加しました。午前10時12分、犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、参加者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

本事業は、事件を風化させず、その教訓と学校安全の思いをつなぎ、広く社会に向けて発信していくため、当時を振り返り、子どもたちにとって安心で安全な学校づくりを誓うものです。

式典では、事件当時は6年生の担任として在籍し、2020年4月に校長に着任した眞田巧校長は、「教職員の学校安全のための取組や同校に関わる多くの方々の協力だけでなく、児童自

身が自分で身を守ることに取り組んでいる一方で、国内外問わず子どもが巻き込まれる事件が今もなお続いている」と話しました。また、「一個人や一学校では対応できない事案でも無力感を感じて目を背けては学校の安全を守ることにつながりません。これまでの地道な取組を継続するとともに、近隣の学校のみならず、全国の学校や関係機関と手をたずさえて、それぞれの経験や知見を情報交換し、安全管理の徹底と、教育の力によって、自他のいのちを大切に、人を守る側、支える側の人間を育てることを引き続きめざしていきます。本校で取り組んでいるSPS(セーフティ・プロモーション・スクール)を推進し、学校安全をリードすべく責務を果たさなければならぬと考えています」と展望を語りました。

修学支援事業基金へのご協力について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済的に困窮する学生の存在は深刻です。本学では早期に、学生が経済的な理由により修学を断念することなく、安心して学業に専念できるよう、大阪教育大学修学支援事業基金を活用し、「緊急学生支援金」給付を実施しましたが、今後も新たな対象学生の増加や、継続支援とともに新たな支援の必要も予想されます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

一口 1000円 クレジットカード等によるインターネットでのお手続きとなります

●基金の詳細についてはこちらから▶

大学ウェブページ 基金ページ

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/forstudent2.html>



●ご協力いただける場合は

上記 ページのこちらのボタンから▶

(寄附)基金寄附支払いシステムF-REGI

※所得税等の控除の対象です。

▶ 修学支援事業基金お申込み

アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



大教大ボールペン



大教大タオル

プレゼント応募締切

2022年 9月30日(金)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複でのご応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&タオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。